

平成 18 年度 農業土木学会 資源循環研究部会 研究発表会の開催

第 7 回農林水産環境展（EFAFF2006）併催催事「第 7 回農林水産環境シンポジウム」（会場：パシフィコ横浜アネックスホール）の一環として、(社)地域資源循環技術センターが事務局を務める(社)農業土木学会 資源循環研究部会の平成 18 年度研究発表会が、平成 18 年 9 月 1 日（金）に開催されました。

この発表会は、農業農村を中心とする水やバイオマス等有機資源の利活用・循環にかかる技術の発展及び部会員間の学術交流に寄与することを目的として、平成 15 年 5 月設立された同研究部会が主催する第 4 回目の研究発表会です。

最初に高橋強部会長による基調講演「循環型社会の確立を目指して」が行われ、直面する環境問題として化石燃料の消費による温室効果ガスの増加、京都議定書における二酸化炭素の排出削減問題とバイオマスの関係を説明され、これからのバイオマスの利活用の特長と課題点を述べられました。

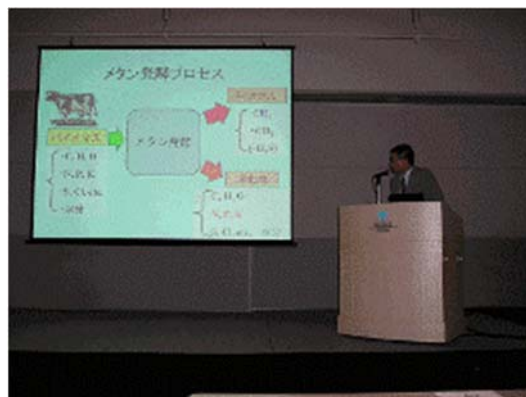
引き続き、12 編の研究発表が行われました。今年度は「人・家畜・農村をとりまく資源循環の構築を目指して」をテーマに、メタン発酵消化液の利用法やエタノールの生産技術の開発、評価基準の検討や開発など、資源循環に関する幅広い発表が行われました。

また、研究発表後、全発表課題の中から研究部会幹事による審査が行われ、最優秀の発表課題に資源循環研究部会長賞が授与されました。

本年度の部会長賞は「メタン発酵消化液ろ液への減圧蒸留処理の適用」（山岡賢・柚山義人・中村真人）が受賞し、研究部会長から賞状と副賞が手渡されました。



高橋部会長基調講演



研究発表（部会長賞受賞者：山岡賢氏）



表彰式